

令和5年 年頭のご挨拶



森田 弘昭

一般社団法人
日本非開削技術協会会長

あけましておめでとうございます。謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

まずは、会員の皆様とこの1年間を振り返りたいと思います。

昨年は、年明け早々新型コロナウイルス感染症第6波が全国に伝播し、夏に第7波、年末に第8波を迎えるなど一昨年と同じように感染症の影響を受けた年でしたが、現在「2類相当」の感染症法上の位置付けを、入院勧告などが必要ない「5類」（季節性インフルエンザなど）に引き下げる見直し論が浮上してくるなど感染症への対応が落ち着いてきた1年でもありました。一方で、異常気象の頻発や戦争など、世界経済に大きな影響を与える出来事も起きました。会員の皆様におかれましても、少なからずこれらの影響を受けたのではないかと推察いたします。しかし年末にはサッカーワールドカップでサムライブルーが躍動し日本中に熱い風が吹き抜けた年でもありました。

協会活動を振り返りますと、年間を通した非開削技術の普及に関する取り組みとして機関誌「非開削技術」を4回（第118号～第121号）発行しました。

2月には、オンライン方式で非開削技術講習会を（公社）日本推進技術協会と（一社）日本管路更生工法品質確保協会との共催で実施しました。

7月には、「デジタル化・脱炭素と非開削技術の関わり」をテーマとして、第29回非開削技術講演会を品川シーズンテラスカンファレンスにおいてWeb併用のハイブリッド方式で実施しました。東京大学大学院工学系研究科総合研究機構特任准教授全邦釘先生には「AIとデータ統合を活用したインフラ高度化へのアプローチ」、国土交通省水管理・国土保全局下水道部下水道事業課事業マネジメント推進室石崎隆弘室長には「下水道事業の最近の話題（予算、下水道DX、マネジメントサイクル、地球温暖化対策）」、（公社）日本下水道協会奥野修平企画部長には「世界の潮流『脱炭素化』に伴う社会変革の要請とその対応」というタイトルで最新情報を提供して頂きました。

11月上旬には、非開削技術見学会として福島第一原発の廃炉現場と中川ヒューム管工業の郡山工場を会員の皆様と一緒に訪問させて頂きました。下旬には第33回非開削技術研究発表会を品川シーズンテラスカンファレンスにおいてWeb併用のハイブリッド方式で実施しました。全14編の発表を4セッションに分けて実施いたしました。

国際活動は、海外渡航がコロナ禍以前の状況になってきたことから従前の活動が復活しつつあります。

近年、推進工法を筆頭に非開削技術の海外への展開活動が官民共同で積極的に進められています。この取り組みでは国が日本の技術基準を海外に普及させ本邦企業が受注活動を行うという標準化戦略を採用しています。当協会ではこの取り組みを支援するために国土交通省が策定を進めているベトナム版推進工法基準（赤本）やインドネシア版推進工法基準（青本）、カンボジア版推進工法基準の策定に（公社）日本推進技術協会と一緒に参加しています。この取り組みの一環として8月にはハanoiにおいて赤本第6版の説明をベトナム政府関係者に対して行いました。9月にはインドネシアのバンドン工科大学において推進工法関連の講演を行いました。さらに10月にはカンボジアにおいて政府関係者に対して講演を行っています。

また、9月にはタイにおける非開削技術の普及拡大を目的としたワークショップを台北非開削技術協会との共同で開催しました。こちらは国際非開削技術協会の助成金プログラムを活用した行事でしたが、コロナ禍により計画から2年延期して開催となりました。当協会の国際委員会を中心に対応しましたが、会員の皆様にも技術発表のご協力を頂きました。

10月には国際非開削技術協会の総会・発表会がフィンランドのヘルシンキで開催され、当協会を含め世界各国から24協会が出席しました。当協会は、海外の非開削技術の開発・普及状況に関する情報収集を行うとともに会員の発表のサポートを実施しました。

12月には、コロナ禍で中断していたベトナム研修を再開し、日本大使館など現地関係機関やハanoi市内の推進工事現場、推進管製造工場、推進管の止水ゴム工場、デモ施工された日本製マンホール蓋などを見学して頂きました。

昨年1年間の協会活動を振り返るといずれも会員の皆様の多大なるご協力・ご支援の下に実施されてきたことが分かります。この場をお借りして心より御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は、私たちの社会や経済に大きなダメージを与えている一方で、さまざまな変化を生み出し、Web併用のハイブリッド方式による講演会の定着など新しいビジネスや文化も生まれてきています。また海外との直接交流の復活など、新しい潮流が「脈動」しているよう思います。

会員の皆様とともに非開削技術分野がこれまで以上に明るく希望に満ちた分野になるように努力したいと考えています。本年もよろしくお願い申し上げます。